

**外観デザイン**で、もっとも特徴的なのは、中央にある直径 24 メートルのドームと、その脇に立つ 50 メートルの尖塔です。この金色に輝く尖塔は、水平に広がる全体構造にアクセントをつけるビジュアルキーであり、同時に排気塔の役割りを備えています。

建物を縦に走るアトリウムも、ロイド・ライトらしい、光をふんだんに取り込むユニークな特徴です。通路とオフィスを分けるガラスとシートロックのパーティションには、内部空間を広く見せる効果があります。

1～3階にはアートギャラリーがあります。展示をお楽しみください。

**執務棟／ADMINISTRATION** は、4階建て、長さ 175 メートル。1962 年に完成しました。マリーン郡の行政機関をはじめ、アン・T・ケント・カリフォルニアルームや図書館があり、どのオフィスにも、屋外から、またはアトリウム側のスカイライトから、必ず光が取り込まれるよう設計されています。

**警察署・裁判所／HALL OF JUSTICE** は、長さ 264 メートル。1969 年に完成しました。執務棟と同様に、アトリウムをはさんだ両側に、モールのようなユニークな形で法廷、陪審員室、判事会議室など、各部屋が配置されています。他にも、保安官事務所、検事事務所、カフェテリアがあります。

## ● 散策コース

**最初に、1階のアートギャラリーにお立ち寄りください。建築家フランク・ロイド・ライトの業績と人物像をご紹介します。**

常設展示 “マリーン郡とフランク・ロイド・ライト” では、マリーン郡図書館のアン・T・ケント・カリフォルニアルーム・コレクションから、数多くの写真や資料を展示し、建設にまつわるエピソードをご紹介します。また、フランク・ロイド・ライト基金による、人物像と創造性をひもとく展示、カリフォルニア州での作品にスポットを当てた展示もあります。

**階段、エスカレーター、またはエレベーター(5、6番)で、2階に上がってください。**

**シビックセンター・カフェ**は、一般の方もご利用いただけます。やわらかな間接照明に照らされた店内で、ヘルシーなカリフォルニア・キューズを楽しみながら、落ち着いたひとときをお過ごしください。景観を美しく切り取ったかのような窓の配置と造形は、もちろんロイド・ライトの演出です。

**ガラスのドアを通り抜け、噴水のあるパティオに出てください。**

ここは、人が働く場所は美しくなければならない——という、ロイド・ライトの信念を形にしたものです。池のデザインは、“無限”を象徴的に表わしています。

水は、建物の冷暖房システムから再循環して使用されています。毎年春には、カモの一家が戻ってきます。

パティオからは、建物全体と屋根のラインが半円形にふち取られていることがはっきりと見て取れます。これは全体をリズムカルに “一体化” させるためのものであり、ロイド・ライトが設計に取り入れていたアジア文化の影響です。“真珠の首飾り”、または “雨だれ” を思い起こさせます。

**パティオを歩けば、金色の尖塔を眺められる絶好の場所があります。**

この尖塔は当初、排気塔と電波塔として計画されていました。最終的には排気機能のみが残され、アジア諸国のパゴダ(仏塔)を現代的にデザインし直したような、美しい姿が与えられました。

**景観を楽しんだあとは、カフェに戻り、右に折れます。エレベーターで法廷フロア——フロア C まで降りてください。**

**裁判所・警察署／HALL OF JUSTICE**

建物全体に見られるデザインコンセプトは “円” です。この裁判所も、それまで 100 年以上受け継がれていた形を捨て、円形構造に仕上げられました。これ以降、国の内外を問わず、同様の構造が多く採用されるようになりました。傍聴人も、弁護人も、弧を描いて座る形になっています。裁判官や陪審員が、証人や検事など、全員を見わたせるよう、配慮がなされています。

**3番エレベーターで1階に上がってください。左にアートギャラリーがあります。**

建築模型をご覧ください。ロイド・ライトが本来望んでいた計画を形にしたものです。いくつかの建物は建設されませんでした。また当初は、スカイライトは含まれていませんでした。計画が進むにつれ付け加えられたものです。

常設展示 “マリーン郡とロイド・ライト” は、アン・T・ケント・カリフォルニアルームの支援によるものです。展示は2階と3階につづいています。

**3番エレベーターで、執務棟を3階まで上がってください。右にアートギャラリーと議会場ロビーがあります。**

議会場ロビーとアートギャラリー、ならびに1階ギャラリーの展示は、マリーン郡芸術評議会により制作されています。

円形構造の議会場は、防音機能を備えた2つの部屋に分けることができ、それぞれ監理委員会と開発計画委員会で使用されます。用途に従って形を変えられる点も、ロイド・ライト建築の特徴です。

**3番エレベーターで4階に上がってください。図書館があります。**

**図書館**

マリーン郡シビックセンター図書館は、直径 24 メートルのドームの直下にあります。ここの間接照明も、ロイド・ライトらしいスタイルです。弧状に配置された書架は、なによりも使い勝手に配慮されています。

**アン・T・ケント・カリフォルニアルーム**には、歴史上重要な資料が集められています。貸し出しを目的としない研究施設です。ロイド・ライト関連の資料も多く保管されています。

**図書館を出て、通路を進んでください。新しい建築模型があります。**

ロイド・ライトの設計を補完する形で、全米建築家協会の建築家アロン・グリーンが、地下刑務所を提案し、1994 年に完成しました。裁判所・警察署棟の末端——丘の中腹に位置しています。受刑者は、トンネルを通して法廷まで移送されます。

**通路を突き当たりまで進むと、環境保全ガーデンに出ます。**

**環境保全ガーデン／CONSERVATION GARDEN**には、地産の植物が植えられています。

はじめてこの丘の上に立ったとき、ロイド・ライトはデザインの構想を思いついたのだと伝えられています。こう言ったそうです。

「これらの丘を美しいアーチで橋のようにつなぎたい」

小道を登れば、彼の思い描いた雄大な景観の全貌を、実際に見渡すことができます。

